

地域医療特別演習Ⅱ

(Introduction to Community Medicine Ⅱ)

第2学年次(地域枠推薦学生対象)

【責任者/担当者】

〔ささやま医療センター・地域総合医療学講座〕 藤岡 宏幸 病院長・教授

【担当者】

〔ささやま医療センター・地域総合医療学講座〕 後藤 雅史 准教授、中山 真美 准教授、
金田 好弘 助教 担当教員

〔ささやま医療センター・地域救急医療学講座〕 宮脇 淳志 准教授

〔ささやま医療センター・循環器内科学講座〕 菅原 政貴 講師

〔医学教育センター〕 蓮池 由起子 医学教育センター長、
今西 宏安 准教授、庄司 拓仁 講師

〔医学教育学〕 常見 幸 准教授

〔臨床教育統括センター〕 柏 薫里 講師

【目的】

地域枠推薦入学学生について、卒前・卒後連携して地域医療の専門医を養成し、将来地域医療教育の指導医となる資質を涵養する。

【科目キーワード】

「地域医療 (community medicine)」「家庭医学 (family medicine)」「老人保健施設 (geriatric healthcare services facilities)」「総合診療 (general medicine)」「プライマリケア (primary care)」

【到達目標(アウトカム)】

- ささやま医療センターの見学を行い地域医療における位置づけを説明できる。
- 地域医療における課題を列挙できる。

【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】

- ・医療専門職としての社会における立場および役割を理解している。
- ・様々な専門分野の協力にもとづく医療の多角的アプローチを理解している。
- ・安全安心な社会や医療に対する国民の期待を理解している。
- ・医療は社会経済活動の一環であることを理解し、医療を社会問題の対象として捉えることが出来る。
- ・兵庫県の保健・医療・福祉・介護および行政は実際どのように行われているのか、どのような問題が生じているかを理解している。
- ・プライマリケアにおける医師の役割と重要性を理解している。
- ・品位と礼節を保ち、自分の行動に対して責任を持つことを理解している。

- ・人間の心理・行動科学の基本、ならびに患者および家族の社会的背景を理解し、同級生らと積極的に関わり、目上の人を尊敬し、コミュニケーションが取れる。ハラスメントをしない。
- ・他者の気持ちを考えることができ、挨拶も積極的にできる。
- ・患者の病の解釈、感情、期待、問題点を認識できる。
- ・診察を見学し、内容を理解できる。
- ・生活習慣病と疾病予防の重要性を理解している。

【概要ならびに履修方法】

本学の地域医療の拠点であるささやま医療センターで宿泊を伴う体験実習を行い、地域医療や家庭医療などの実際に触れる。授業計画等については別途連絡する。

【準備学修ならびに事後学修に要する時間】

丹波篠山市の歴史、地理的特性、人口、医療体制などを予め調べておくこと。少なくとも 1～2 時間は予習を行うこと。

【成績の評価方法・基準】

実習科目であるため参加が必須である。実習への取り組み、レポートなどを総合的に評価する。

【学生への助言】

真摯な態度で参加すること。個人的事由、課外活動などによる欠席は認められない。

【フィードバック方針】

実習成果発表会を通じて実施する。

【オフィスアワー】

特に設定しない。

【受講のルール、注意事項、その他】

夏期休暇期間中にささやま医療センターにおいて実習を予定している。

詳細な日程は別途連絡する。

体調不良の場合は速やかに連絡すること。

【教科書】

なし

【参考書】

なし

【連絡先】

西宮教学課(0798-45-6161)

ささやま医療センター 管理課 福島(079-552-1181)

2024 年度 地域医療特別演習 II ささやま医療センター・地域総合医療学講座

【ささやま医療センターについて】

兵庫医科大学は1997年10月に国立篠山病院を引き継いで兵庫医科大学篠山病院を開設しました。1999年6月にリハビリテーションセンター、同年9月には老人保健施設を開設しました。2010年6月には篠山病院からささやま医療センターへ改称するとともに移転開院し、2016年1月には居宅サービスセンターを開設しました。人口減少・高齢化が進む地域において、大学が医療を実践するとともに教育を行うという全国に先駆けた先進的な取り組みです。

兵庫医科大学は創設者森村茂樹先生が建学の精神「社会の福祉への奉仕」「人間への深い愛」「人間への幅の広い科学的理解」のもとに1972年4月に開学し、2022年には50周年を迎えました。兵庫医科大学は、次の50年に向かって「EMPOWER THE PEOPLE～心に響く医を、私たちがいるかぎり～」をスローガンに地域に住むすべての人が住み慣れた地域でその人らしく充実した生活ができるように、教職員全員が医学・医療を通じて地域・社会に貢献します。

ささやま医療センターでは、総合診療科・内科、整形外科およびリハビリテーションが一体となって、病院、リハビリテーションセンター、老人保健施設および居宅サービスセンターを運営しています。

診断治療に難渋する症例や高度先進医療を必要とする症例などについては、患者紹介や医師応援も含めて兵庫医科大学病院（西宮本院）と緊密に連携して対応しています。循環器内科、消化器内科、肝胆膵内科、糖尿病内分泌代謝免疫内科、呼吸器内科、血液内科、脳神経内科、リウマチ膠原病内科、産婦人科、精神神経科、泌尿器科、眼科などについては、非常勤医師を派遣していただき、診療、教育を行っています。

また、質の高い地域医療を持続するためには多職種連携を実践できる人材育成が重要です。兵庫医科大学医学部、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部の学生に

多職種連携教育を行うとともに、直面する様々な課題を解決する研究を展開して、学生、医師、メディカルスタッフを教育しています。

地域のみなさまから信頼される兵庫医科大学ささやま医療センターを目指して教職員一同努力しています。